

1 事業目的

医療職向けの認知症対応力向上研修は、対象職種の拡大等の充実が進められている。一方で、これらを受講した専門職が地域において機能発揮するためには、都道府県・指定都市による着実な研修実施や市町村・修了者へのフォロー等が必要となる。

また、介護職向けの認知症研修は、介護報酬改定等を背景に受講ニーズが高まっており、着実な研修の実施とともに適切に受講機会が提供されているかを検証する必要がある。

そこで、両研修については、都道府県・指定都市等に対して実態調査を行い、実施上の工夫等の事例を収集し、また、適切に受講機会が確保されるような方法論を検討する。

2 事業内容

(1)医療職研修研究班

アンケート調査結果を中心に、都道府県・指定都市(実施側)および専門職団体(受講側)双方の視点から、認知症対応力向上研修の実施上の課題を整理、評価を行った。

①都道府県・指定都市に対し、「かかりつけ医認知症対応力向上研修」、「病院勤務の医療従事者向け研修」、「歯科医師研修」、「薬剤師研修」、「看護職員研修」の実施状況や課題・工夫について情報収集を行った。また、②専門職団体（都道府県単位）に対して、研修受講側としての課題や意見について情報収集を行った。

(2)介護職研修研究班

アンケート調査結果を中心に、都道府県・指定都市における介護職研修（認知症介護実践者研修、同実践リーダー研修等）について、実施状況（申込・定員・受講者数等）や実施上の課題・工夫等の情報収集を行った上で、研究会議で評価・検討を行った。

(3)その他、認知症サポート医養成研修の教材(スライド)改訂、看護職員認知症対応力向上研修の伝達講習会を行った。

3 事業結果

(1)医療職研修研究班

受講者のマッチング：研修の実施（案内）にあたっては、上記の目的を中心とする研修である点を十分に踏まえて、受講対象、実施回数等を検討することが重要となる。

多職種受講・研修による効率的な実施：企画・実施にあたっては、認知症地域医療支援事業実施要綱の枠組みを十分考慮しつつ、①それぞれの研修において一定の定員枠を設定した上での他の職種等への拡大、②かかりつけ医研修と病院医療従事者研修（集合研修）の合同、歯科医師研修と薬剤師研修の一部講義の合同実施など、効果的・効率的な研修実施の検討も重要と考える。

修了者に対するフォローアップの充実：地域ごとの修了者の人数、地理的分布、修了からの年数等を勘案の上、フォローアップ研修の企画・検討を進めていくことが重要である。

研修教材(改訂等)のあり方：今後、内容が共通する部分について、講義内容・講義教材を共有し、メンテナンスも横断的に実施する等の具体的な効率化が必要である。

(2)介護職研修研究班

介護職研修については、受講機会の適正確保については改善していることが確認できた。

4 課題

課題として、医療職研修は、改訂後数年経過している病院勤務の医療従事者向け研修の教材の見直しが急がれる点、かかりつけ医・歯科医師・薬剤師研修では内容共通の講義の教材や実施を共有化するなど、効果的・効率的な実施・運営の検討が必要な点が挙げられる。